

## まえがき

最近、姓名学（判断）がひそかなブームになっているといわれています。ただ、姓名学が注目を浴びているといっても一部の人たちだけにであって、一般の人の間では、まだまだ占いの的なものとしか認識されていないようです。しかし、多くの人たちが関心も興味も全くないかと言えそうですが、正しく知る方法があれば知りたいというのが実情ではないかと思えます。そこで、「姓名学」が単に、的中した、外れたといった、俗に言う当てる物的に人の吉凶を占う姓名判断に止まるものではなく、実はそれ以上に深遠なる「学問」であることを、少しでも読者の皆さんに知っていただきたいたく筆を執ったところです。

詳細については本文中で説明しますが、姓名学は姓名の数理に関する学問です。ですから、当然その対象は、姓（苗字）の画数の数理と名の画数の数理ということになります。

ちなみに姓の数は、現在、日本には約十萬種類あり、読み方まで区別すると、約三十萬種類あるとも言われています。世界で姓の数が一番多いのは、多民族国家のアメリカで約百万種類。二位が日本で、フィンランドが約六万で三位、イギリスが一万数千で四位、中国が一万余で五位と続き、韓国・北朝鮮は約三百種類となっています。

姓名学は、一人ひとりが持つ姓の数理に、如何にして適合した数理の名を組み合わせるかが、重要なポイントです。

その姓名学を学んで私がわかったことは、人間にとって生まれもった「宿命」は変えられなくても、その後の「運命」は変わるものであり、変えることができるということでした。そして、姓名の不思議を追究する「姓名学」は正に運命学の最たる学問であり、活用することによって、その人に幸運を呼び込むことができるということでした。

以来、私にとって姓名学は導きの糸であり、バイブルのような存在となったのです。

私は現在、札幌市議会議員を務めており六期目ですが、実は、そもそも私自身が改名の経験者であり、姓名の持つ霊的威力を身をもって経験しています。

最初に姓名学に関心を持ったのは今から三十八年くらい前、前職のタイル職人時代、札幌市から四十キロほど東に離れた町に出張した時です。宿泊先の旅館の老主人が、朝五時から夜の十時まで毎日働きづめで痩せこけた私を見て、「マイル屋さん、名前は何て言うの？」と問いかけてきたことがきっかけでした。

旧名を言うと老主人は、分厚い姓名判断の本を開いて、私の過去の不幸な生い立ちを的中させました。それまでも幾度となく姓名判断ができる人から同様のことを言われてきたのですが、そのあまりの的確さに驚嘆し、興味を覚えたことを今でもハッキリと思い出すことができます。そして、このままの姓名では未来永劫ずっと不幸であることを私に告げ、「元茂」という名を授けてくれたのです。

ただ、この段階ではまだ、姓名判断が人の一生を左右するほどのものとは思えず、どちらかというかいぎてきと懐疑的に捉えていました。

ところが約一年後、札幌在住の姓名学者のあんざいいわと安齋巖人先生の知己を得て、「三上元茂」の名前を鑑定してもらったところ命名方法の一部に誤りがあり、「元茂」は良名だが、「三上」の姓には適合しないという鑑定結果が当たりました。先の老人は姓名判断にかなり精通した人でしたが、専門家ではなかったということになります。

そこで安齋先生に新たに命名していただいた結果、私の姓名は現在の「三上洋右」になったのです。以来、苦労はあってもお陰様でこれまで不幸と感じたことは一度もありません。

ところで、今回の出版にあたり、いくつかの迷いがありました。三十数年間姓名学を熱心に学んできたものの、未だいま浅学の身にある自分が姓名学について語るのは早いのではないか、また、姓名判断が占いのようなものと広く思われているなか、議員がそれを頼りに政治活動を行っているかのような誤解を受けないか、などです。

しかし、それでも出版に踏み切ったのは、近頃、何と読んで良いのか理解に苦しむ珍妙な名づけがやたらに多く、一つのブームのようになっていくことに大きな危惧を覚えるようになったことがあります。

私は、実体験や姓名学の学習を通じ、命名・改名は、単純に漢字など、その文字の持つ印象や雰囲気だけで行われるべきではなく、一定の法則に則<sup>のっと</sup>って行わなければならないということを知っています。そのことを理解していながら黙<sup>もく</sup>して潔<sup>いさぎよ</sup>しとするべきではないと考えたのです。

もう一つには、多くの命名・改名の方が画数の計算を間違っていることがあります。詳細は巻末の別章に記しましたが、姓名の画数を計算する時、「俗字」や「国字」はそのままの字画で数え、「略字」や「偽字」は必ず正字体で数えなければなりません。そのため、本書には漢字（国字を含む）四一〇六文字、部首二一四文字、ひらがな・カタカナ各七三文字の正しい画数を掲載し、実際に命名・改名をお考えの方の役に立つよう配慮しました。

そのようなことから、本書の執筆に当たっては、単なる入門書以上の本とすることを念頭におき、私の知り得る限りを尽くして、その由来や思想など根本的なことをできるだけ体系的に説明するように努めたところです。

本書が、読者の皆さんの改名やお子さんやお孫さんの命名のお役に立ち、多くの方々が幸運を呼び込む一助となることを願っています。

筆者の願いをお汲<sup>く</sup>み取りの上、お読みいただければ幸甚でございます。